

3 3 中部国際空港二本目滑走路の早期整備について

(財務省、国土交通省)

【内容】

- (1) 来年夏頃の閣議決定に向けて審議の始まった、社会資本整備重点計画の見直しにおいて、「完全24時間化の実現」を位置づけること。
- (2) 日本の成長戦略に不可欠な中部国際空港の完全24時間化実現に向け、二本目滑走路の早期整備に必要な調査を行うこと。
- (3) 地域を挙げて取り組んでいる航空需要拡大に対し、国も全面的に支援すること。
- (4) 空港利用者の利便性向上のため、アクセスの充実に取り組むこと。

(背景)

- 中部国際空港は、開港以来、成田国際空港、関西国際空港と並ぶ国際拠点空港として、我が国の航空輸送の発展に大きく貢献している。
- 我が国が、現在の厳しい経済状況を脱し、今後、更なる成長を目指していくためには、日本の成長エンジンである中部地域が、発展著しいアジアと一体となって活力を取り戻し、再び我が国経済を牽引していかなければならない。
- このため、地域のグローバルな交流を支える中部国際空港に、二本目滑走路を早期整備し、完全24時間化を実現する必要がある。
- 国は、本年7月に、来年夏頃の閣議決定を目途として「社会資本整備重点計画」の抜本的な見直しに着手している。新たな計画では、真に必要な社会資本のランドデザインを提示するとしていることから、我が国の国際競争力の強化や当地域の交流拠点性を高める中部国際空港の「完全24時間化の実現」を明確に位置づける必要がある。
- 併せて、地域と国内外とを直結する航空ネットワークの維持・充実も不可欠であることから、地域関係者が一丸となって需要拡大に取り組んでいるところである。
- また、空港利用者の利便性向上に向けて、更なるアクセスの充実が必要である。

(参 考)

【中部国際空港】



(平成 21 年 10 月撮影)

【社会資本整備重点計画について】

- 1 現計画（平成 21 年 3 月 31 日閣議決定）での位置づけ
「中部空港は、地元関係者の努力による需要の拡大を図りつつ、将来に向けて、**完全 24 時間化を検討し**、フル活用ができるよう、地域と連携して空港機能の拡充に向けて努力する。」
- 2 計画見直しのスケジュール（最速案）
平成 22 年 7 月 26 日 重点計画見直しについて諮問
(航空分野の検討) ・ 第三者機関により整備の必要性を計画段階で精査する仕組みを構築（平成 22 年度中を目途）
・ 着陸料体系の再構築の検討（平成 23 年 8 月まで検討）
平成 23 年 4 月～6 月 中間とりまとめ案決定、都道府県からの意見聴取、パブリックコメント
7 月～8 月 パブリックコメントの結果報告、計画案の答申、計画の閣議決定

【地域の主な取組状況】

中部国際空港二本目滑走路建設促進期成同盟会	・平成 20 年 4 月 30 日 設立（会長：愛知県知事） ・地元（愛知・岐阜・三重・名古屋）の自治体・経済関係の 43 団体の長で構成。 ・政府等関係機関への要望活動を実施。
愛知県	欧米・アジア等でエアポートセールスを実施 中部国際空港を利用する国際物流促進に関する調査を実施
中部国際空港利用促進協議会	観光 PR セミナーを開催するなど、インバウンド需要の拡大 トラック共同輸送事業や輸出入促進事業（荷主・フォワーダーへの支援策） 新規就航促進事業の実施（平成 21、22 年度の新規就航：中国東方航空（南京便）、エティハド航空（アブダビ便）、済州航空（ソウル便）、ベトナム航空（ホーチミン便））